



おかげさまで第一生命は、2012年9月に  
創立110周年を迎えます。

2012年8月6日

---

## 第64回「保健文化賞」受賞者の決定について

---

第一生命保険株式会社（社長 渡邊光一郎）が主催する第64回「保健文化賞」の受賞者が別紙のとおり決定しました。

「保健文化賞」は、1950年に創設されて以来、保健医療、健康増進、生活環境、高齢者および障がい者保健福祉、少子化対策等の多岐の分野において顕著な実績を残された団体および個人を表彰することで、保健衛生の向上に寄与し、この分野における権威ある賞として高い評価をいただけてきました。

第64回となる本年度は、2月1日から4月16日の期間に募集を行い、団体、個人合わせて56件のご応募をいただきました。この度、審査委員による選考のもと、10団体、個人5名の受賞者が決定しました。

これまでの受賞者総数（今回含む）は、625団体、個人321名、合わせて946件ののぼります。

なお、11月に贈呈式を開催し、受賞者には、厚生労働大臣から表彰状を、そして当社からは感謝状とともに賞金（団体200万円、個人100万円）を贈呈します。

以上

主催	第一生命保険株式会社
後援	厚生労働省
	朝日新聞厚生文化事業団
	NHK厚生文化事業団

## 第64回保健文化賞受賞者一覧

受賞者名	都道府県	業績
茨城県産婦人科医会	茨城県	増加する不妊治療患者のために不妊専門相談センターを開設し、医学的・専門的な相談や不妊治療に関する情報提供や心理的援助、市民公開講座等の実施など幅広い活動を通じて、県民の健康と福祉の向上に貢献している。
一般社団法人 市川市医師会	千葉県	地域で良質な在宅医療を提供するため、地域医療支援センターを開設し、保健医療福祉ネットワーク拠点を構築するとともに、人材支援や医療機材の無償提供をはじめ、具体的かつ総合的な在宅医療の推進に貢献している。
特定非営利活動法人 スマイルクラブ	千葉県	障がい者も健常者も誰もが身近にスポーツを楽しむことができる環境をつくるために、ボランティアの養成などを積極的に行い、地域に根づいた活動を行うとともに、アジアでの障がい者スポーツ指導者のネットワークづくりにも貢献している。
公益財団法人 エイズ予防財団	東京都	エイズに対する差別や偏見が強かった時代から、エイズの予防のための知識普及や、エイズ診断・治療・予防等の研究助成、国際的な情報交換等を行い、国民の保健福祉の向上に貢献している。
特定非営利活動法人 骨形成不全症協会	東京都	患者、家族、医師、看護師、医学研究者など様々な立場の方々が、ボランティアとしての地道で身近なネットワーク活動を継続することにより、骨形成不全症のみならず、肢体に不自由を持つ多くの障がい者の保健福祉および医療の発展に貢献している。
社会福祉法人 日本心身障害児協会 島田療育センター	東京都	日本で最初の重症心身障がい児（者）施設として設立され、長年にわたり全国の先頭に立ち、専門職の協力と連携によって、医療、リハビリテーション、生活援助などの活動や教育を通じて、利用者の残存機能の開発と維持に尽力し、重症心身障がい児（者）の療育の推進と福祉の向上に貢献している。
公益財団法人 日本リウマチ財団	東京都	リウマチ性疾患の予防と治療に関する調査研究を推進するとともに、リウマチ医療に従事する医師や看護師等の専門職の養成によるリウマチ医療の進歩発展や、講演会による正しい知識の普及等により、国民の健康と福祉の向上に貢献している。
新潟県西蒲原郡弥彦村	新潟県	全国で初めて、学校におけるフッ化物を活用したむし歯予防対策の先駆的な取組を行い、歯科保健対策を積極的に推進し、フッ化物洗口の全国的な普及と要介護者に対する口腔ケアに貢献している。
健康ますだ市21推進協議会	島根県	全住民を対象とした地区活動と、あらゆる世代の豊かな暮らしを支える良好な社会環境を整備することを目的とし、関係機関・団体・行政から成る活動を展開することで住民の健康づくりに貢献している。
熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会	熊本県	在宅小児患者やその家族をはじめとする小児在宅医療に関わる全ての人が、安心して在宅医療に取り組むことができるように、小児科医が中心となった小児在宅医療に関するネットワーク作りにも貢献している。
吉田 圭治	福島県	長きにわたり、障がい者歯科診療や訪問歯科診療に積極的に取り組み、自らその診療を行うだけでなく、他の歯科医師もこれらの分野の診療に取り組むことのできるシステムづくりに貢献している。
池田 優子	群馬県	エイズカウンセラーとして患者家族に寄り添うことから出発し、中学生や高校生への啓発活動や、患者を支える地域づくりに取り組むとともに、大学生ピアカウンセラーの養成及び思春期の対象への仲間教育の推進に貢献している。
斎藤 友紀雄	東京都	70年代から自殺予防学会と「いのちの電話」の創設に関わり、それぞれの組織の中核となり、これらの全国的拡大に務めてきた。また、海外文献を紹介するなど理論的構築を行うとともに、組織拡充に貢献している。
夏目 長門	愛知県	先天的な口腔の病気に苦しむ母子を保護する社会奉仕活動を続け、発展途上国の医療援助に尽力するとともに、国内において医療事故救済事業や感染症予防・高齢者の口腔ケアの実践と啓発を行うことで、広く保健医療に貢献している。
小倉 剛	大阪府	肺がんなど各種の呼吸器疾患の病態に関する実験的、臨床的な研究活動を幅広く行い、その成果を診療面に積極的にとり入れ、その進歩に寄与するとともに、医療関係者や一般社会に対する教育・啓発活動に貢献している。